

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!



新野ワイワイ塾

少子・高齢化や都市部への人口流出が進む中、地域の活力が低下している。それは、住民のつながりの弱体化につながる。住民が、生き生きと暮らす「住みよい元氣なまち」の実現のためにはどうしたらいいか。今、地域の真価が問われている。

新野町で、住民がともに助け合い、地域課題の解決に向け、自らの手で実践しているのが「新野ワイワイ塾」の皆さん。町の行事やイベントに積極的にいかかわっていき、町を盛り上げる。夏のイベント「あらたの夏祭り」では、担い手不足と聞きサポートした。新野竹林コンサートのお場作りのほか、休校中の新野西小学校周辺の清掃活動、どんど焼き、防災イベント、里山への遠足。町の催しに行くとき常に会員の姿がある。また、町出身で日本電気学の祖といわれている橋本宗吉を顕彰する取組を始めた。

町は、平等寺の門前町で、流通の要所。林業や商工業などで栄えた。だが、地域衰退の波は町に押し寄せ、人口は最も多かった昭和22年から半減した。



あらたの夏祭りをサポート



どんど焼きで無病息災



防災訓練でテント設営を習う

そんな閉塞した町の現状を打開し、かつてのにぎわいを取り戻したい。そんな思いが会員の心にある。

活動の始まりは、平成25年にさかのぼる。新野公民館で町の歴史を調べていた一ノ宮敬治さんが「皆で寄り合ってワイワイ言うて、町を盛り上げていけへんか」と提案。平等寺、桑野川源流など町の歴史や自然を学ぶことから始めた。「町にはこんなええもんがあるんか」と気付いた。「地域の良さを見つめ直し、継承したい」。地道な活動に徐々に賛同者が増えた。

つながりは町内だけにとどまらず、神奈川県横浜市のトトロ幼稚園児と交流を続けているほか、今年の夏には都会の子どもを招く。その根底にあるのは、昔から住民に根付いている「おもてなしの心」。新野公民館館長の服部常悦さんは「活動することで地域住民が元気になってもらえれば。そして、かつてのようにたくさんの人に町を訪れてほしい」と先を見据える。地域再生へ向け大きな可能性を秘めた「新野ワイワイ塾」から目が離せない。

発行/平成30年(2018年)6月1日 [719号]  
 編集/阿南市企画部秘書広報課 〒774-8501 阿南市富岡町ノ町12番地3 ☎0884-22-1110  
 印刷/米崎印刷株式会社 e-mail: hisho@anan.tokushimajp